

# News Letter No.1

## 発刊のご挨拶

財団法人 精神・神経科学振興財団

会長 里吉 榮二郎



このたび待望の財団法人 精神・神経科学振興財団ニュースレターを発刊する運びとなりました。このニュースレターの目的は本財団の活動と社会的役割を社会の皆様によく理解し、認識していただくことにあります。また、多くのご批判とともに、ご支援、ご鞭撻を賜りたいと存じております。

このニュースレターの発刊に際し、本財団の事業活動について紹介させていただきます。

最近、財団の活動には2つの重要な発展がありました。1つは「寄附行為」を変更し、以下の新しい事業を開始したことであります。それを更に充実して参る所存であります。もう1つは今年度から発足しました賛助会員制度により多くの賛助会員の方々のご協力が得られましたので、その会員の方々への財団の活動状況を定期的にご報告することです。

本財団は平成3年に発足いたしました。最初の10年間の事業は企業等から温かいご理解のもと、精神・神経疾患領域の学会関係等への寄附金に依存してきました。「寄附行為」の変更に伴い、更に財団を発展向上させるためには、財団の現状から見て誠に容易ではないために、財団の活動にご理解いただける方々に賛助会員としてご協力賜り財団の財政基盤の強化を図ることが不可欠と考えまして、賛助会員制度を発足させた次第であります。皆様方のご厚意によりまして、財団独自の事業を行うことが可能になり、厚生労働省から大型の研究事業が委託されるようになりました。現在、司法精神医療等人材養成研修事業である、指定医療機関従事者机上・病棟研修事業、自殺対策のための戦略研究事業及びこころの健康科学推進事業の委託を受けておりますが、

今後は財団独自の研究・研修事業も展開して参りたいと存じております。

私どもの財団の果たすべき役割は国立精神・神経センターのそれと相通じるものがあります。すなわち国立精神・神経センターと協力し、精神・神経・筋疾患、発達障害に関する必要な活動を行い、精神保健の普及充実に努めることです。

21世紀はこころと脳の時代といわれています。自殺の増加、うつ病の蔓延、ひきこもり、虐待、重大な犯罪、睡眠障害、心身症等、社会的関心も高まっています。その一方で、認知性障害、統合失調症、うつ病等の精神疾患、パーキンソン病や筋ジストロフィーを始めとする各種神経・筋疾患、更に精神遅滞、自閉症、重症心身障害等の発達障害及び難治性てんかん、薬物依存等の対策も重要課題であります。

これらの問題を解決するために財団は今後とも課せられた使命と重責を果たし、国立精神・神経センターと協力して、精神・神経系領域における研究の飛躍的な向上を図り、その結果、精神・神経系の病気や障害の原因と本態を明らかにして的確な治療法を開発することを可能とし、これらの病気や障害に苦しむ人々の健康と福祉の向上に寄与し、更に国民のメンタルヘルスの向上を促進し、国民の一人ひとりがこころ豊かで明るい生活を送ることができる社会の実現に大いに貢献してゆきたいと考えております。

賛助会員の方々ならびに広く一般の皆様方のご理解とご協力をお願いする次第であります。

里吉 榮二郎